

れ、爲に相面語することを得ず、遂に廣林の自力によつて發明した所であるといふ。

ダンスウフチメイカイクジユウ 段數不知明解口授 一册。金澤の三池流算者下村幹方の著で、西永廣林の著した段數不知明解を説明したものである。明和七年に成る。

タンドウ 湛堂 ↓ニョアンタンドウ 如庵湛堂。

タントロジマ たんとろ島 珠洲郡眞脇のうち姫部落の東方沖に在る島。

タンパクセキ 蛋白石 江沼郡菩提小字焼小屋・能美郡赤瀬から産する。焼小屋の蛋白石は、流理を呈して紫褐色を帯びたる石英粗面岩中に胚胎し、瑠璃色淡きも半透明で光澤の強い良品がある。

タンバマチ 丹波町 金澤の舊町名。馬場一番丁なるもと横山外記邸地の横町を呼び、昔此の附近が神谷丹波邸のあつたため町名にしたといふ。今はこの町名廢絶した。

タンモノ 反物 慶長三年六月三日加賀藩の令に、『一、きぬのたけは京尺二丈五尺、はばは大むかしのごとくたるべき事。一、布のたけは京尺二丈八尺、はばは如前々たるべき事。』と見える。又寛文四年には、絹・紬の類一端大工のかねにて たけ三丈四尺幅一尺四寸、布・木綿はたけ三丈四尺幅一尺三寸より短尺のものを織り得ざる從來の規定を破るべからざることを令してゐるが、それは幕令を傳へたものである。

タンレイソチユウ 丹嶺祖吏 曹洞宗の僧。若狭の人。諸名宿に歴參し、後寶圓寺月嘯虎白の門を叩き、次いで山城平尾山に在つて大悟し、所解を虎白に呈した。是より濃の全久、

參の龍後諸寺を司り、天和元年六月寶圓寺九代に屈請せられ、真享元年丹波の小尾山に隠れ、慈徳寺を創めて虎白を開山とし、又法華寺を營みて移り、寶永七年七月十六日八十七歳を以て寂した。

チ

チウンジ 智曇寺 鳳至郡鹿磯に在つて、眞宗東派に屬する。

チエン 智圓 河北郡外日角眞宗東派因託寺十四代の住持。寛政六年圓乘院講師の門に入り、文政四年寮司となり、嘉永四年三月二日七十四歳を以て寂。法名本法院誠慶。

チエンカン 致遠館 明治二年に創設せられた壯猶館内の英學所は、城西元御細工所(雅々館跡)に移り、更に西町神護寺に轉ずるに及んで致遠館と號した。三年教師三宅復一東京に歸り、長野桂次郎來つて之に代つた。桂次郎は又米田爲八とも立石斧次郎ともいひ、文久元年幕府の米國に使を派した時通辯となつた人で、復一の師であつたものである。

同年致遠館は大手町なる元御普請會所に移り、七尾語學所を併合してその隆昌を謀り、十一月兼六園の異御殿に轉じ、城中に在つた挹注館を併せて中學東校となつた。七尾語學所の教師であつた米國人オースボンは、又致遠館の教師となつたが、三年八月期滿ちて解

履せられた。致遠館の生徒數は七八十名であつた。

チカクジ 智覺寺 金澤西堀川町に在つて、眞宗東派に屬する。山號は白龍山。初め河北郡本根布に在つた。

チカノリ 近則 加賀の刀工。三州鍛冶系圖に據れば、初代藤島行光の子で、石川郡泉に住み、曆應年間に生まれて應永八年に歿したとし、又一説に初代清光は近則の子であるともいふ。併し近則の作も、曆應以前の行光作も、應永頃の清光作も現存せぬから、これらの事に就いては推定し難い。

チカラズマフ カずまふ 二册。能登黒島の俳人珠卜編。京橋屋治兵衛板。珠卜が藏した嵐雪の『力ずまふ津手烈しきや一ト嵐』を立句にした支考・其角三吟の附合を巻頭に載せ、關更・蕪村・一茶・甫尺等當時の人々の發句及び附合を列べたものである。序は天明丙午初秋洛東山芭蕉堂關更。跋は天明六むまの暮秋行脚甫尺。

チカラゼンエモン 力善右衛門 石川郡倉光に生まれ、幼より膂力衆に超えた。傳へて云ふ、壯年の時笠間神社に祈つて大力を得、人呼んで力善右衛門というたと。善右衛門に就いては奇異の物語が多い。明治二十二年三百回忌を修し、併せて碑を倉光に建てた。

チカラツエ ちから杖 一册。金澤の俳人竹之坊著。寛政三年初冬京菊屋太兵衛板。著者の俳論集で、俳諧正風体の事、七部集變体の事、片歌の事以下が記されてゐる。自序に寛政庚戌加州金澤沙彌竹之坊とあり、南無庵關更も序を加へ、烏兔坊眉山の跋がある。

チカヲカ 近岡 石川郡鞍月庄に屬する部

落。文明九年十月十五日附攝津修理大夫宛所、丹後前司・和泉前司判書に、『加賀國倉月庄内近岡村南新保大河線等事、爲山門掠給奉書致違亂云々』と見える。

チカヲカゴウ 近岡郷 曆應四年八月七日附攝津掃頭親秀讓狀に、『穢土寺領分加賀國倉月庄内近岡郷内月峰五町云々』とある。後世鞍月庄に近岡村がある。

チカヲカトシアキ 近岡利明 尊卑分脈に、林大夫家家の孫林六郎光明の六男近岡九郎利明がある。石川郡近岡に關係の人であらう。

チカヲカノトウベエ 近岡の藤兵衛 石川郡近岡の人。寛文四年八月前田綱紀が放鷹の際御召舟の水手となり、爾後屢その役に服し、十一年三月二人扶持を賜はつた。

チカン 智鑑 ↓ショウアンチカン 照庵智鑑。

チキジ 知氣寺 石川郡林郷に屬する部落。天正十一年四月豊臣秀吉の制札にちけん寺村とあり、元和五年五月四日前田利常の知行所附及び明暦二年の留記に知慶寺村とあり、萬治元年の村御印に知氣寺村とある。郷村名義抄には昔知氣寺といふ寺があつたから村名が起つたといふが、それは知慶寺であつたのであらう。又加越能名跡緒に『知氣寺領の内持山に居城有。倉ヶ島の城といふ。古へ林六郎居住之由。同村に右六郎館跡も有。』とある。

チキジガキ 知氣寺柿 石川郡知氣寺に産する柿。延寶六年七月書上に『澁柿、知氣寺村』とある。後この柿が諸所に廣まるに至つても、尙知氣寺柿の名を以て稱せられた。

チキユウジツク 地球實測 一册。遠藤高瓊著。この書は高瓊が早川理兵衛・三角風